公益財団法人 世界人権問題研究センター

2023年度

人権大学講座

後　援

京都府・京都市・京都商工会議所・京都府教育委員会・京都市教育委員会
京都新聞・朝日新聞京都総局・毎日新聞京都支局・読売新聞京都総局
産経新聞京都総局・日本経済新聞社京都支社・NHK京都放送局・KBS京都

公益財団法人世界人権問題研究センター　シンボルマーク
全ての人間は、等しく人権を持つ‥という気持ちを込めて、
温かい心を示すラインとバックに地球を描き、デザインしました。

講座日程

	月日曜	時　間	種 別	講　　座　　名	講　師
1	6月29日（木）	13:30～13:40	開講式		
		13:40～16:30	シンポジウム	「ビジネスと人権」が変える21世紀における京都の企業活動	吾郷 眞一 井上 良子 定金 史朗 三輪 敦子
2	7月5日（水）	14:00～15:40	講　義	教育機会の格差－学校外教育費に注目して	田中 宏樹
3	7月24日（月）	14:00～15:40	講　義	近世京都東山の風景　―「祇園」「清水」界わいの光と影―	下坂 守
4	8月2日（水）	14:00～15:40	講　義	古代・陸奥ブームへの系譜	菅澤 庸子
5	8月21日（月）	14:00～15:40	講　義	性的マイノリティと生殖医療	小門 穂
6	9月1日（金）	14:00～15:40	講　義	室町・戦国時代の祇園祭神輿渡御	河内 将芳
7	9月12日（火）	14:00～16:30	フィールドワーク	ウトロ地区の歴史と現在	ウトロ平和祈念館
8	10月24日（火）	14:00～15:40	講　義	国際人権を考える ―ジェンダーの視点から―	杉木 志帆
9	11月10日（金）	14:00～15:40	講　義	部落問題の現段階 ―ネット、ヘイト、地域社会	山本 崇記
10	11月21日（火）	14:00～16:00	ワークショップ	ダイバーシティの練習問題	渡辺 毅
11	12月4日（月）	14:00～15:40	講　義	アメリカにおける日系人強制収容と部落差別	廣岡 浄進
12	12月19日（火）	14:00～15:40	講　義	ビジネスと人権：事業・業務と人権のつながりを考える	菅原 絵美
13	1月19日（金）	14:00～15:40	講　義	1918年 米騒動から考える日本近現代史	高野 昭雄
14	2月2日（金）	14:00～15:30	講　義	ハンセン病差別の実相 ―ハンセン病施策検討会による最終報告書から―	坂元 茂樹
		15:30～15:40	修了式		

会場	シンポジウム		ウイングス京都　（中京区東洞院通六角下る）
	講　義 ワークショップ	第2回～第6回	ハートピア京都　（中京区竹屋町通烏丸東入る）
		第8回～第14回	世界人権問題研究センター（下京区塩小路高倉東入る）
	フィールドワーク		ウトロ平和祈念館　（京都府宇治市伊勢田ウトロ51）

※世界人権問題研究センターの移転（本年10月）に伴い、第8回以降の会場が変わりますので、ご注意ください。

講師プロフィール

吾郷　眞一　（あごう　しんいち）

研究センタープロジェクトチーム5 チームリーダー
九州大学名誉教授
主要業績：「国際労働基準と、ILO、労働組合の役割」『月刊全労連』（2020年No.275）「21世紀における国際労働基準の役割と課題」『日本労働研究雑誌』（2018年7月号）など

井上　良子　（いのうえ　りょうこ）

研究センタープロジェクトチーム5 専任研究員

定金　史朗　（さだかね　しろう）

研究センター研究員、DT弁護士法人弁護士
ビジネスと人権ロイヤーズネットワーク運営委員

三輪　敦子　（みわ　あつこ）

研究センター研究員
（一財）アジア・太平洋人権情報センター所長
主要業績：「北京会議の今日的意義」『国際女性』Annual No.34(2020年12月）「『ジェンダーに基づく女性に対する暴力』をめぐる国際的な動き『NWEC実践研究』第9号(2019年2月）など

田中　宏樹　（たなか　ひろき）

研究センター研究員
同志社大学大学院総合政策科学研究科教授
主要業績：『政府間競争の経済分析』（勁草書房、2013年）『公的資本形成の政策評価』（PHP研究所、2001年）など

下坂　守　（しもさか　まもる）

研究センター研究員、京都国立博物館名誉館員
主要業績：『中世寺院社会と民衆』（思文閣出版、2014年）、『祇園祭1050年記念中近世の祇園社の研究』（法蔵館、2021年）など

菅澤　庸子　（すがさわ　ようこ）

研究センター研究員、大手前大学非常勤講師
主要業績：「平安初期における蝦夷の「帰化」-「俘囚」身分の固定をめぐって-」『世界人権問題研究センター研究紀要』18号(2013年）など

小門　穂　（こかど　みのり）

研究センター研究員、大阪大学大学院人文学研究科准教授
主要業績：『家族の変容と法制度の再構築：ジェンダー/セクシュアリティ/子どもの視点から』（共著、法律文化社、2022年）など

河内　将芳　（かわうち　まさよし）

研究センター研究員、奈良大学文学部史学科教授
主要業績：『絵画史料が語る祇園祭』（淡交社、2015年）『室町時代の祇園祭』（法藏館、2020年）など

杉木　志帆　（すぎき　しほ）

研究センター研究員、香川大学教育学部講師
主要業績：「情報機関による大量傍受に伴う私生活の尊重への権利および表現の自由への干渉」『国際人権』33号（2022年10月）など

山本　崇記　（やまもと　たかのり）

研究センター研究員、静岡大学人文社会科学部教授
主要業績：『差別研究の現代的展開』（日本評論社、2022年）、『住民運動と行政権力のエスノグラフィ』(晃洋書房、2020年）など

渡辺　毅　（わたなべ　たけし）

穀雨企画室代表

廣岡　浄進　（ひろおか　きよのぶ）

研究センター研究員
大阪公立大学人権問題研究センター准教授
主要業績：「越境する人の移動と被差別部落」朝治武、黒川みどり、内田龍史共編『講座近現代日本と部落問題　第1巻　近代の部落問題』（解放出版社、2022年3月）など

菅原　絵美　（すがわら　えみ）

研究センター研究員、大阪経済法科大学国際学部教授
主要業績：『国際人権法の考え方』（共著、法律文化社、2021年）、『人権CSRガイドライン』（部落解放出版、2013年）など

高野　昭雄　（たかの　あきお）

研究センター研究員、大阪大谷大学教育学部教授
主要業績：『近代都市の形成と在日朝鮮人』（人文書院、2009年）など

坂元　茂樹　（さかもと　しげき）

研究センター所長、神戸大学名誉教授
（公財）人権教育啓発推進センター理事長
主要業績：『侮ってはならない中国　今日本の海で何が起きているのか』（信山社新書、2020年）『日本の海洋政策と海洋法』(信山社、2018年）など

講義の概要

第1回　シンポジウム　「ビジネスと人権」が変える21世紀における京都の企業活動

近年、企業活動において「ビジネスと人権」が重要なテーマになっています。2011年に国連人権理事会において「ビジネスと人権に関する指導原則」が採択されてから10年以上が経ち、持続可能な開発目標（SDGs）の達成にとっても，人権の保護・促進が重要な要素と位置付けられています。
このような背景のもと、日本政府は、2020年に「『ビジネスと人権』に関する行動計画（2020－2025）」を策定し、2022年には、企業における人権尊重の取り組みを後押しするため「責任あるサプライチェーン等における人権尊重のためのガイドライン」を発表しました。そこでは、（1）人権方針の策定、（2）人権デュー・ディリジェンス（DD）の実施、および（3）救済、の3つについて指針を示していますが、経済産業省による調査において、約半数の企業が「具体的な取り組み方法がわからない」と回答している状況があります。
本シンポジウムでは、なぜ企業に人権尊重が求められるようになったのか、国際的な背景や経緯、国連の「指導原則」における企業の責任範囲、企業の具体的な取組み事例から人権DDの実践方法まで、研究者・実務家（弁護士）のパネリストの報告をもとに、京都の企業にとって求められる視点や事例から学ぶことなど、具体的な課題について多角的に議論します。

第２回　教育機会の格差　― 学校外教育費に注目して

教育格差が指摘されて久しいが、その実態はあまり明確にはなっていない。
本講演においては、教育費をめぐって生じうる学習機会の格差を、塾代、予備校代などとして支出される学校外教育機会の格差にも目配りしつつ、データをもとに実態解明する。子どもの学齢、学校種（公立or私立）、子どもの数などの違い等によって、教育機会の格差の状況がどのように変化するのかについても、家計の教育費支出の実態に即しつつ解説する。

第３回　近世京都東山の風景　―「祇園」「清水」界わいの光と影 ―

現在、多くの観光客で賑わう京都の東山地区は、近世（江戸時代）そのほとんどが祇園社・清水寺等の寺社が支配する地域でした。
そこには江戸幕府が支配した洛中の町とはあきらかに異なる寺社領の町としての世界が存在しました。門前町として栄えた「祇園」「清水」の賑わいと、それとは裏腹にその周辺部で生きた最下層の都市民の生活について考えます。

第４回　古代・陸奥ブームへの系譜

古代の東北は、都から遠く離れた「鄙」の地として蔑みの対象となる一方、「歌枕の地」とされ平安貴族の憧れの地でもあった。この想いはいつから育まれたのか。奈良時代から平安時代への東北観の変遷を、陸奥の「安積山の歌」の歌伝承の変遷を通してみていく。憧れと同居する蔑みの側面にも触れ、二つの心情を表裏に持つ王朝時代の貴族の抱く独特の想いをさぐる。

第５回　性的マイノリティと生殖医療

生殖医療が広く普及するなか、従来利用者として想定されていたのは男女のカップルですが、精子提供や卵子提供、代理出産といった第三者の関わる生殖医療の利用を望む同性カップルも増加しています。性的マイノリティが生殖医療を用いることについてどのような議論がなされてきているのでしょうか。
本講演では、2021年に法改正を行ったフランスの動向を中心に、性的マイノリティと生殖医療をめぐる問題について考えます。

第６回　室町・戦国時代の祇園祭 神輿渡御

現在もおこなわれている祇園祭の神輿渡御。そのようすを室町時代・戦国時代までさかのぼってみていきたいと思います。そこに関わる人びとは現在とは大きく異なっており、身分的に差別された人びとも重要な役割をはたしていました。そのようすを文字史料と絵画史料をもちいて具体的にみてきたいと思います。

第７回　フィールドワーク　　ウトロ地区の歴史と現在

在日コリアンの街、ウトロ地区。その歴史を継承するとともに、人びととの交流の場である「ウトロ平和祈念館」で人権と平和の大切さを考えたいと思います。

第８回　国際人権を考える　― ジェンダーの視点から ―

今日の社会では、言葉の「暴力」やハラスメントがインターネット空間で増幅されがちです。こうしたなか、社会でマイノリティとされやすい人々が、より効果的に自らの権利を実現できるようになるためにはどうしたらいいのでしょうか。国際社会には、そのための国際的な人権保障の仕組みがあります。ジェンダーの視点から、その意義と限界を考えます。

第９回　部落問題の現段階　― ネット、ヘイト、地域社会

2016年12月の部落差別解消推進法制定以降も、インターネットや地域社会での部落差別事象が深刻化している。近年の司法判断や、国・自治体の対応、また、地域社会の取組（まちづくりや隣保事業）などを通じて、部落問題の是正の方途について考えてみたい。全国各地の現状や、部落差別の把握方法をめぐる難しさ、「世系差別」をめぐる国連と日本政府の見解の違いなどにも話を広げる。

第10回　ワークショップ　ダイバーシティの練習問題

ダイバーシティという言葉は、多様性、と言えば済みそうなのに何故だか横文字言葉を使いたがる私たちの社会に、いつの間にかそれなりに定着しました。横文字言葉だと何となく「良い感じ」のイメージを思い描きやすいのかもしれません。もっとも、イメージが先行しすぎて、本当の意味での多様性を見失うこともないとは言えません。

そこで、今回のワークショップでは、そもそも多様性ってどういうことなのか、一緒に考えてみたいと思います。

第11回　アメリカにおける日系人強制収容と部落差別

1941年12月の真珠湾攻撃により日本がアメリカ合衆国と開戦すると、アメリカ政府は翌年2月から太平洋沿岸部に居住する日系移民の強制収容政策を開始しました。当時も被収容者の中から抗議の声はあがりましたが、戦後になって公民権運動に刺激された3世を中心にリドレス運動が展開され、大統領の公式謝罪と補償が実現し、今では政府が史跡の保護や社会教育に責任を負っています。その一環で整理公開されている記録からは、日系移民の部落差別も調査の関心の的であったことがうかがわれます。部落史研究の立場から、部落出身移民の経験に光をあてます。

第12回　ビジネスと人権：事業・業務と人権のつながりを考える

国際社会では、2011年に国連「ビジネスと人権に関する指導原則」が策定され、企業の人権尊重責任に対する期待が明らかにされました。各国・EUでの取組みが進むなか、日本政府も20年に「『ビジネスと人権』に関する行動計画」を、昨年に「サプライチェーン等における人権尊重のためのガイドライン」を策定しました。では「企業の人権尊重責任」とは何か、責任を果たすためにどのような視点・取組みが求められているのかを考えていきます。

第13回　1918年　米騒動から考える日本近代史

1918年（大正８年）の米騒動において、京都は全国ではじめて軍隊が出動したことで知られている。またその京都では、本講演が行われる予定の東九条（崇仁地区）で米騒動がはじまっている。本講演では、京都の米騒動を概観した上で、米をはじめとする食生活から日本近現代史全体を振り返ってみたい。

米騒動から100年以上が過ぎた今、あらためて米騒動の持つ意味について、京都関係の史資料を用いて、教科書とは異なる角度から考えていきたい。

第14回　ハンセン病差別の実相　― ハンセン病施策検討会による最終報告書から ―

2019年6月、熊本地裁は、500名を超えるハンセン病病歴者の家族らが国の強制隔離政策によって憲法13条が保障する社会内で平穏に生活する権利（人格権）が侵害されたと訴えた事件で、家族らが受けた偏見差別による人権侵害の責任は国が負うと判決した。

これを受けて、有識者会議と当事者市民部会からなるハンセン病施策検討会が設置され、ハンセン病問題の全面的解決に向けて、国に対し最終報告書を提出し政策提言を行った。

本講演では、政策提言の起草にあたった一人として、ハンセン病差別の問題が決して「過去の問題」ではなく、ハンセン病病歴者及びその家族が未だに差別に受けている現状を明らかにする。

申込方法

定　員（先着順）

シンポジウム 120名	第2回～第6回 講座　50名
フィールドワーク 30名	第8回～第14回 講座　70名

受講料

1回　1,000円　　全講座一括の場合　10,000円

※全講座を一括でお申込みいただくと受講料が割引となります。
※当センターの賛助会員は無料で受講できます。

シンポジウムは無料です

受講手続き

シンポジウム

○ **6月22日（木）までに**「受講申込書」にて、郵送またはFAXでお申込みください。
○ 事務局から申込み確認の連絡をします。

講座 ・ ワークショップ ・ フィールドワーク

○ **受講日前日までに**「受講申込書」にて、郵送又はFAXでお申込みください。
　複数の受講希望日をまとめて申込むことができます。
○ 事務局から申込み確認の連絡をします。
○ 受講料は、当日、会場でお支払いください。
○ 受講料の銀行振込みを希望される場合は、センター事務局までお問合せください。

※当日の申込みはできませんので、注意してください※

申込先

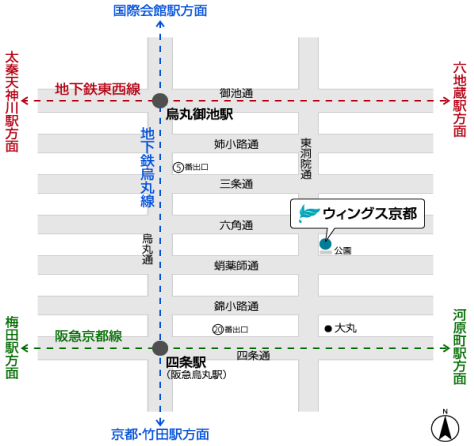
公益財団法人 世界人権問題研究センター 事務局

〒604-8221　京都市中京区錦小路通室町西入天神山町290番地1
TEL（075)231-2600 ／ FAX（075）231-2750 ／ E-mail　jinken@khrri.or.jp

会場案内

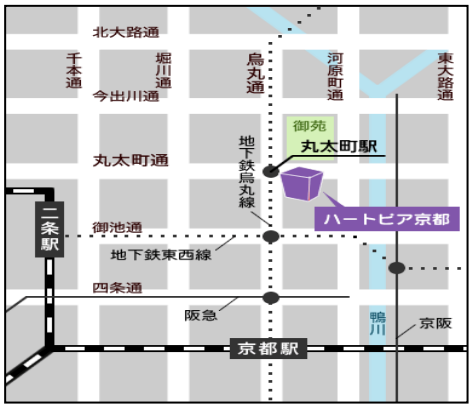
シンポジウム

京都市男女共同参画センターウイングス京都
京都市中京区東洞院六角下る御射山町262番地
・地下鉄「烏丸御池駅」5番出口より南東へ徒歩5分
・地下鉄「四条駅」20番出口より北東へ徒歩5分



第2回～第6回 講座

京都府立総合社会福祉会館ハートピア京都
京都市中京区竹屋町通烏丸東入る 清水町375番地
・地下鉄「丸太町駅 」5番出口 （地下鉄連絡通路にて連結）
・京都市バス、京都バス、JRバス
　「烏丸丸太町」バス停　烏丸通沿い南へ



FAX　075－231－2750

2023年度　人権大学講座 受講申込書

キリトリセン

ふりがな お名前		ご所属	
ご連絡先	〒　　－		
	TEL：　　（　　）	FAX：　　（　　）	
受講料	□ 全講座　￥10,000	□ ￥1,000×（　　）回	
支払方法	□ 当日支払い（毎回）	□ 当日支払い（一括）	□ 銀行振込み

講座日程 受講希望日に✓	受 講	開 催 日	講　　座　　名
		6月29日(木)	ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ 「ビジネスと人権」が変える21世紀における京都の企業活動
		7月 5日(水)	教育機会の格差－学校外教育費に注目して
		7月24日(月)	近世京都東山の風景 ―「祇園」「清水」界わいの光と影―
		8月 2日(水)	古代・陸奥ブームへの系譜
		8月21日(月)	性的マイノリティと生殖医療
		9月 1日(金)	室町・戦国時代の祇園祭神輿渡御
		9月12日(火)	ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ　ウトロ地区の歴史と現在
		10月24日(火)	国際人権を考える ―ジェンダーの視点から―
		11月10日(金)	部落問題の現段階 ―ネット、ヘイト、地域社会
		11月21日(火)	ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ　ダイバーシティの練習問題
		12月 4日(月)	アメリカにおける日系人強制収容と部落差別
		12月19日(火)	ビジネスと人権：事業・業務と人権のつながりを考える
		1月19日(金)	1918年 米騒動から考える日本近現代史
		2月 2日(金)	ハンセン病差別の実相

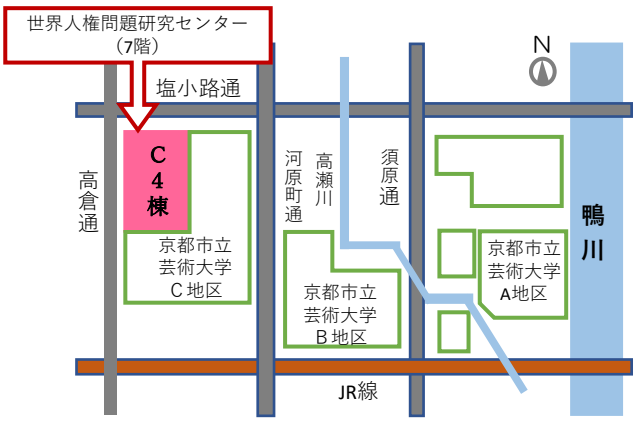
第8回～第14回 講座

世界人権問題研究センター

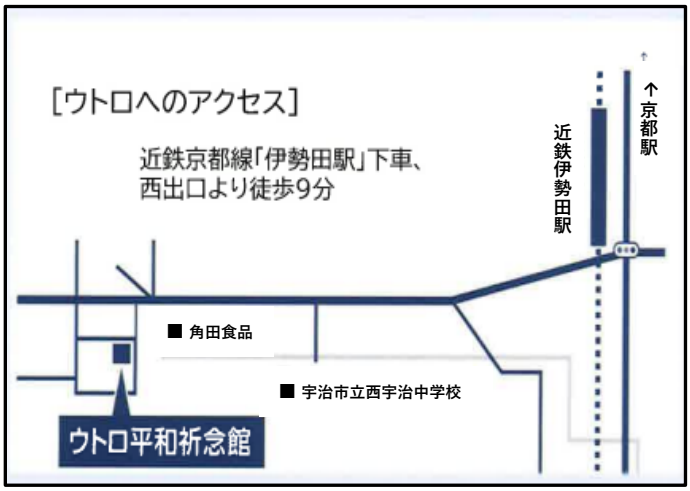
京都市下京区塩小路通高倉東入る 京都芸大C4棟7階

・JR、地下鉄「京都駅 」から塩小路通を東へ徒歩5分

・京都市バス「塩小路高倉」下車すぐ



フィールドワーク

ウトロ平和祈念館

京都府宇治市伊勢田ウトロ